

# ネイチャー・ウォーク

平成 29 年 6 月号

2017. 6. 25 発行

(通巻第 282 号)

公益財団法人  
ECO SAITAMA 埼玉県生態系保護協会

会 部会：自然を歩く会

■先月のネイチャーウォーク

## 野川 Part4. もう一つの源流へ

(JR 中央線 東小金井駅～JR 西国分寺駅)

5 月のネイチャーウォークは、野川散策第 4 弾。東小金井駅に 30 名の参加者が集まりました。今回の野川散策ではどんな出会いがあるのでしょうか？それでは、30 名で野川 Part4.のはじまり、はじまり。



東小金井駅から住宅街を歩き、野川を目指します。

野川が見えてきました。ここからは野川に沿って歩いていきます。





河川敷に生える草花などを観察しながら歩きました。

道中、熟し始めたクワの実（黒く熟しはじめた実を食べている方もいらっしゃいました。）や日向ぼっこをしているシマヘビも見られました。

さまざまな植物の開花、結実が見ごろでした。

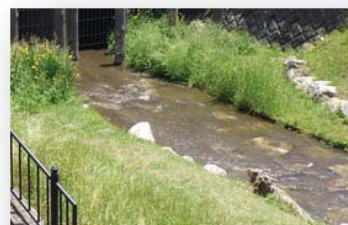
貫井神社にて一休み。ここにある池は湧水だそうでとても透明度の高い池でした。コウホネなどの水草が水面に浮かぶ池の上空を、ギンヤンマやイトトンボの仲間が悠々と飛んでいました。



また、貫井神社の池には日向ぼっこするアカミミガメにまじってスッポンも見られました。（池の前には「亀を放さないでください」との注意書きが...）

さて、野川散策を再開します。

ところが、野川にかかる鞍尾根（くらおね）橋を境に野川の姿が、人工的なコンクリートの排水路へと様変わりしてしまいました。この変化に、残念がる声もありました。



ここからは野川のもう一つの源流（湧水）を探して歩き続けます。そして、しばらく歩くと「お鷹の道」に到着しました。「お鷹」とは江戸時代に、国分寺市内の村々が、尾張徳川家のお鷹場（鷹狩りの狩場）に指定されたことが由来といわれています。

「真姿の池」にも立ち寄りしました。平安時代、不治の病に苦しむ玉造小町が、この池で身を洗い清めると病は消え、元の美しい姿に戻ったという伝説があります。これがこの池の名の由来と言われています。

また、「名水百選」に選定されていることもありかなり澄んだ池でした。池には鯉が優雅に泳いでいました。

野川の湧水、もう一つの源流を堪能しました。



お鷹の道を抜けるとすぐに国分寺がありました。



そして、武蔵国分寺跡にて昼食です。Walk 認定証を受賞した方に景品の贈呈がありました。おめでとうございます。

お昼の後は、ゴールの西国分寺駅まであと一息。今回のコースの最後の見どころとして、縄文時代の住居跡を見学、当時の生活に思いをよこしました。

野川に沿って見られる生きものを見て、遺跡等を訪れて歴史を感じる一日となりました。

次回のネイチャーウォークもどうぞよろしくお願ひします。

